

淀川流域委員会様

川上ダム反対の意見書

伊賀市

濱田 雄士

川上ダムの建設計画が、発表されてから以来40年余りの歳月がたちました。

何のためにダムを建設するのか。そこから考えて見たいと思います。第一に治水対策。第二に利水対策が考えられます。限られた情報の中で、判断するしかないわれわれ庶民ですが、利水についてはダムを作っても需要量が少ないため水道料金がこれまでよりも割高になるということで各自治体が利用計画から撤退しているとのこと。治水対策についても防波堤の補強や森林等による自然のダム作り等の方法で解決できる。との情報を得ています。治水も利水もダムに頼る必要ないとすれば、もうダムは要らないはず。でも、作りたいたいという。何故作りたいのか。地方も国も財政が悪化しているのに何故、お金を使うのか。

限られた税金をどう使っていくか。政治家任せ、役人任せで良いわけではない。770兆円あまりの借金を抱えているそのことを我々国民一人一人がどう考えるか。その具体的な学びの材料が身近な川上ダムだ。治水利水の面でもダムはもう必要ないという報告が出ている。巨額の税金を使ってまでダムを建設することは未来の我々の子孫に対する冒瀆だ。

『仕事がなかったら、土木業界は倒産する。だからダム建設は必要なのだ』と言う論理は余りにも受身の姿勢だ。仕事は作り出せばいい。ダムに頼らない方策を今こそ見出すべきだ。

小、中学校時代に川で遊んだ思い出は今も鮮明です。その川も上流にダムが建設されて泳げる川、遊べる川ではなくなりました。環境も劇的に変わりました。そのことを身をもって味わった者です。どうか、賢明な判断がなされることを祈るものです。

ダム建設にかわる総合的な方策を共に考えましょう。